



やかんでお湯をわかすと、^{りょう} ^ふ量が増えるのはなぜなの

^{みず} ^{あたた}水は温められると、^{ちよう}ぼう張するから

^{しけんかん}試験管に、ろうとのついたせんをさしこみ、ろうとにつけたしるしの^{ところ}所まで、いっぱい^{みず} ^いに水を入れます。その後、^ご ^{しけんかん} ^ゆ ^{なか}試験管を湯の中にしばらく入れます。すると、^{しけんかん} ^{みず} ^{あたた}試験管の水は温められて、^{たいせき} ^ふ ^{すいめん} ^{たか}体積が増え、水面の高さは、しるしをつけた^{ところ}所よりも高くなります。

^{みず} ^{あたた}水は温められると、^{たいせき} ^ふ体積が増えるという性質があります。^{あたた}温められて体積が増えた^{みず} ^{おんど} ^さ水は、温度が下がると、^{たいせき} ^ふもとの体積にもどります。

やかんでお湯をわかすと、^{みず} ^{りょう} ^ふ水の量が増えるのは、^{みず} ^{あたた}水が温められて水が^{みず} ^{ちよう}ぼう張し、^{たいせき} ^ふ体積が増えるためです。

ふっとうすると、^{みず} ^{りょう} ^へ水の量は減ってくる

やかんでお湯をわかすと、^{みず} ^{おんど}水の温度はしだいに上がっていき、やがて、^{そこ}やかんの底から^{おと} ^あコボコと音をたてながら、あわが上がり、わきたつようになります。このとき、^{さき}やかんの先から、^{ゆげ} ^で湯気がさかんに出ています。このようすを、^{みず}水のふっとうといいます。

やかんの^{みず}水がふっとうしているときは、^{みず} ^{すいじょうき}水が水蒸気になって、^{くち}やかんの口からさかんに^で出ていくので、^{みず} ^{りょう} ^へ ^{つづ}やかんの水の量は減り続けます。(監修・青木 国夫)

